

予習の意義と、その適切な進め方

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

天候が不順で暑くなったり寒くなったりしていますので、風邪などを引かないように気をつけていただきたいと思います。

2. 今日は、6月の準備は5月中にしておいたほうがよいというお話を最初にさせていただきます。仕事をされている方はもちろん、学校で勉強している方も準備は早ければ早いほうがよいです。仕事をされている方は6月にすることがわかっていると思いますので、5月中に少しずつ6月の準備をしておき、6月に入ったら7月の準備をするとよいと思います。このように、1か月前あるいは2か月前から準備をして仕事を行うようにすると、よい仕事ができると思います。

泥縄、つまり泥棒を捕まえてから縄をなうように、その日が来たらその日のことをやるというのではあまりよい仕事はできません。労働時間が増えるだけで、本当によい仕事をすることはできないと言われていています。

3. 勉強も同じです。学校の授業の前に予習をすることが大事です。そこで、次は予習の仕方について少しお話をさせていただきます。「予習は何のために行うのか」というお話です。

私の考えは少し変わっているかもしれませんが、「予習とは、わからないところをはっきりさせてから授業に臨むために行うものである」と考えます。問題意識を持ち、何がわからないかをはっきりさせて授業に臨むためにこそ、予習があると思います。

4. では、どのようにすれば、わからないところがはっきりするのでしょうか。一番大切なのは、各教科の教科書を1ページずつ丹念にゆっくりゆっくりと読むことです。そのときに、各教科ごとに必要な作業を億劫(おっくう)がらずに行うとよいでしょう。

5. 例えば、数学は初めに教科書を読み、次に教科書に載っている例題や応用問題を少しずつ解いてください。できればすべての問題を解いてみましょう。すると、どの問題もできるわけではなく、できない問題や理解しにくいところがあることがわかります。

そのようなときには、教科書に書いてある内容・載っている問題のうち、どこまでが自分の力でよく理解でき、どこからが理解できないかをはっきりさせることが大事です。難しい問題に関しては、頭の芯が痛くなるまで考えることも時には必要です。高校生になるとかなり難しい問題が出てきます。とりわけ高校3年生では頭の芯が相当痛くなるような問題が出てきますが、それは自分の勉強だと思ってやってみることも偶(たま)にはよいと思います。

6. すぐに答えを見るとか参考書を見るとかも時には必要だと思います。しかし、それは自分でしっかりと考えてからにしましょう。

参考書を使って勉強する場合は、学校の先生から授業を受けるようなつもりで、解説を読んだり例題を解いたりしましょう。すると、わからないところが減ってくると思います。1冊では足りないときは、2冊目の参考書に取り掛かりましょう。そうすると、わかるところがさらに増え、わからないところが減ってきます。友達に相談するのは、そのあとでよいと思います。

7. まず、自分で教科書を読んで、わからないところを明確にする。次に、先生の授業を聴くような態度で、何冊かの参考書を使ってわからないところを勉強する。それでもわからない場合は、友達に相談する。ここまで行うのが、数学の予習の仕方です。

このような予習をすると、問題意識が持てます。そのため、授業にすっと入っていただけます。また、何が重要であるかがわかっていますので、そこを聞き逃しません。それでもわからなかったら、質問をすることもできます。

8. 予習をしないでいて、少し調べればわかる簡単なことを質問するのは、先生に対して失礼です。エチケットに反すると思います。小学生や中学生はあまり気にせずどんどん質問してもよいですが、高校生ぐらいになったら自分で調べてから先生に質問するようにしましょう。大学生や大学院生はなおさら、自分でよく調べてから質問してください。予習もしないで、少し調べればわかるような簡単なことを先生に質問することは、学年が上がれば上がるほど失礼になります。エチケットに反します。

9. では、英語の予習はどのように行うのがよいでしょうか。教科書を手にしたらとにかく1課(Lesson)ごとに声を出して読んでみましょう。読んでいるうちに、内容が少しでもわかってくれば、しめたものです。また、リスニング用の教材があるときは、それを少し聴いたらポーズ(休止)を入れ、あとに続いて発音してみましょう。こうして5～6回読む練習をすると、その間にどのような内容が書かれているのかがうっすらとわかってきます。1文1文の意味を考えるのは、そのあとでよいと思います。

10. 教科書やCDの教材をひたすら読み、すらすらと読めるようになったら1文1文の意味を考える。そのときにわからないことばがあっても、すぐには辞書を引かない。前後の関係から、文の意味を推測する。これが大事です。また、中学生用の教科書にはイラストや写真などがたくさんありますので、それを参考にしましょう。英語が得意な中学生や高校生・英語検定の3級に合格した方は、易しい英英辞典(英語のことばの意味を、英語で説明した辞典)で単語の意味を調べましょう。ただ、普通は英和辞典で十分です。このようにして予習をすることをお勧めします。

11. 国語も、英語と同様です。意味のわからないことばがあってもすぐに辞書を引かずに、前後の関係からその意味を推測してみましょう。それから、辞書で調べてください。調べた意味はノートに書き写し、それを何度も見返して正確に覚えることも大切です。

12. 今日は、予習の仕方についてお話しました。予習はわからないところを明確にしてから授業に臨むために行うものです。ですから、必ず行いましょう。また、仕事をする方は、6月にやることを5月中にノートに書き出し、よい仕事をしていただきますよう、お願い致します。